

# 浄願寺だより

H27夏No.4

遠方にお住まいのご門徒さんから、定期的にお寺の近況を聞かせてほしい、どの要望があり、このたび「浄願寺だより」としてお寺をとりまく身近な出来事を取りまとめてお知らせしようと思えます。夏冬二回の発行を予定しています。

平成二十七年七月二十六日発行

編集責任者

浄願寺住職 関秀法

## 長生きしなよ

住職 関秀法

ある夏の日の思い出です。

当時まだ三歳ぐらいだった娘と散歩をしていましたと、向こうから近所のおばあさんが歩いてこられました。その

おばあさんは、九十歳を越えておられますが、まだまだお元気。杖をつきながら、のっしのっしと歩いておられます。「たいぶ物忘れがひどくなったわ」とご自分ではおっしゃいますが、まったくそんな風には感じられません。特に昔のことに関しては、村の誰よりもよくご存知です。

しかしその一方で、おばあさんは、人一倍の苦勞をしてこられた方だということも、誰かから聞いたことがありません。その時代の人はみなそうだったのかも知れませんが、早くに親を亡くし、戦争にすべてを奪われ、貧しさのどん底の中で子供を育てられました。その頃のがむしゃらな働きぶりには、何かにとりつかれているようだった、と昔のおばあさんの事を知る人は言います。しかし、そんな苦勞話を

人に語ることもなく、今では野球チームができるほどに増えた孫やひ孫に囲まれ、一族のヌシとして自宅の仏間にどっしりと座って、天気が良いと時々こっぴどお散歩に出られるのです。

さて、そんなおばあさんのお散歩の途中にお出会いをした私と娘は「こんにちは、暑いですね！」と挨拶しました。おばあさんは、私たちに気付かれて、「なんや、お寺のぼんかいな！」とおっしゃいました。そして、そこからは、八十年前に何処何処に誰が住んでいらしたという話や、誰が何処に嫁いで行かれたという話を聞かせていただき（私にはほとんど誰のことか分かりません）、最後に、「あんたは寺の子や、しゃんとせなあかんで！」と訓示をいただきました。「まあ、体に気をつけてばちばちやんな」とやさしい言葉もかけていただきました。そして一通り話もおわり、「それでは、きげんよう」と別れるとき、おばあさんは、私の三歳の娘に声をかけてくださいました。

おばあさんは娘の顔をのぞき込むようにして顔をぐうつと近づけて、こっぴどおっしゃいました。

「おじょうちゃん、あんたもな、ワシみたいに長生きしなよ」。そして、深く皺を刻んだお顔でニカツと微笑まれたのです。

「あんたも、ワシみたいに長生きしなよ」という言葉。これは何気ない言葉のようで、なかなか聞けない言葉です。大抵の人はその反対の事を おっしゃいます。「膝も痛いし、耳は遠くなるし、若いもんには偉そうにされるし、長生きなんかするもんやないわ」、こういう事はよく聞きます。また身近な人を亡くされたりすると、「長生きしたせいで、こんなかない目にあわなん」そんな嘆きを聞くこともあります。しかし、そのおばあさんは私の娘に、「あんたも、ワシみたいに長生きせよ」と声をかけてくださった。それが苦勞に苦勞を重ねて九十年を生き抜いてこられたおばあさんが辿り着かれた心境なのでしょう。

「この人生には、悲しいことや、辛いことや、理不尽なことがいっぱいあるんだよ。あなたもこれからさういうことに何度も何度も出会うて行くだろうけれども、私が九十年生きて断言できるのは、それでもこの人生は生きるに値する、ということ。どんな代償を払ってでも人生は生きるに値する。きっとあなたにもそのことがわかる日が来るから、どんなことがあっても与えられた命を精一杯生きよ。」

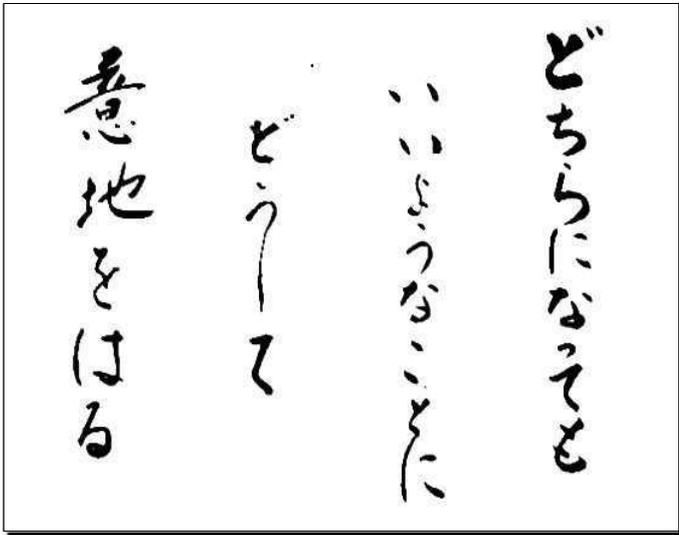
そんなメッセージがおばあさんの短い言葉には込められているような気がして、そしてそれをこれから人生を歩み始める若い娘に伝えようとして下さった事に心から感謝しながら、おばあさんの のっしのっしと歩く後ろ姿に思わず頭の下がったことでした。

平成二十七年七月



浄願寺だよりはインターネットでもご覧になれます。  
浄願寺ホームページ  
<http://www.jyouganji.com>

## お寺の掲示板より



字・関秀實

## 浄願寺の梵鐘

お寺の境内には梵鐘がつきものですが、浄願寺には梵鐘がありません。これは太平洋戦争の当時、国内の金属が不足してゆく中、全国の寺院が梵鐘や、銅製の仏具などを供出したためです。浄願寺も昭和十七年に梵鐘を供出し、その後釣鐘堂だけがしばらくは残っていたのですが、老朽化が進み、これも取り壊されました。本堂の余間には篠尾から出征なさった多くの戦没者の方々の

お写真が今も掲げられています。今年には終戦七十年を迎えます。どこかの戦場の弾丸となって散った物言わぬ梵鐘とともに、平和について深く考えたいと思います。



## 門徒の広場

門徒の広場はWEB版では  
ご覧いただけません。

平成二十七年前期、一名の浄願寺門徒がお浄土にお還りになりました。お念仏とともに、哀悼の誠をさげます。

天田  
竹下いと様

## 浄願寺 永代供養墓

お墓の管理や、後継者に不安をお持ちの方へ。永代供養墓への埋葬・改葬も選択肢の一つです。浄願寺永代供養墓は道に面したお参りのしやすいお墓です。詳しくは浄願寺ホームページが住職までおたずねください。

## 編集後記

二月に二人目の子供が無事生まれてくれました。女の子です。妹ができたことにもない、上の娘が、今まで私のことを「ばば」と呼んでいたのを「お父さん」と呼ぶようになりました。どちらが良いということも無いのですが、「お父さん」と呼ばれると、俄然責任が重くなったように感じます。同時に私の「お父さん」もこんな責任感の中で家族を支えていたのだなあ、と、父親の気持ち少し分かったような気がしました。

浄土真宗本願寺派  
笹尾山浄願寺

〒620-0925  
福知山市上篠尾725  
電話(0773)-22-5280  
email [jyouganjiweb@gmail.com](mailto:jyouganjiweb@gmail.com)  
<http://www.jyouganji.com>

住職 関 秀法